2009年3月期 中間決算

2008年11月6日

住友商事株式会社

Topics

1. 中間決算総括

2. 通期業績見通し

3. GG Planの進捗状況

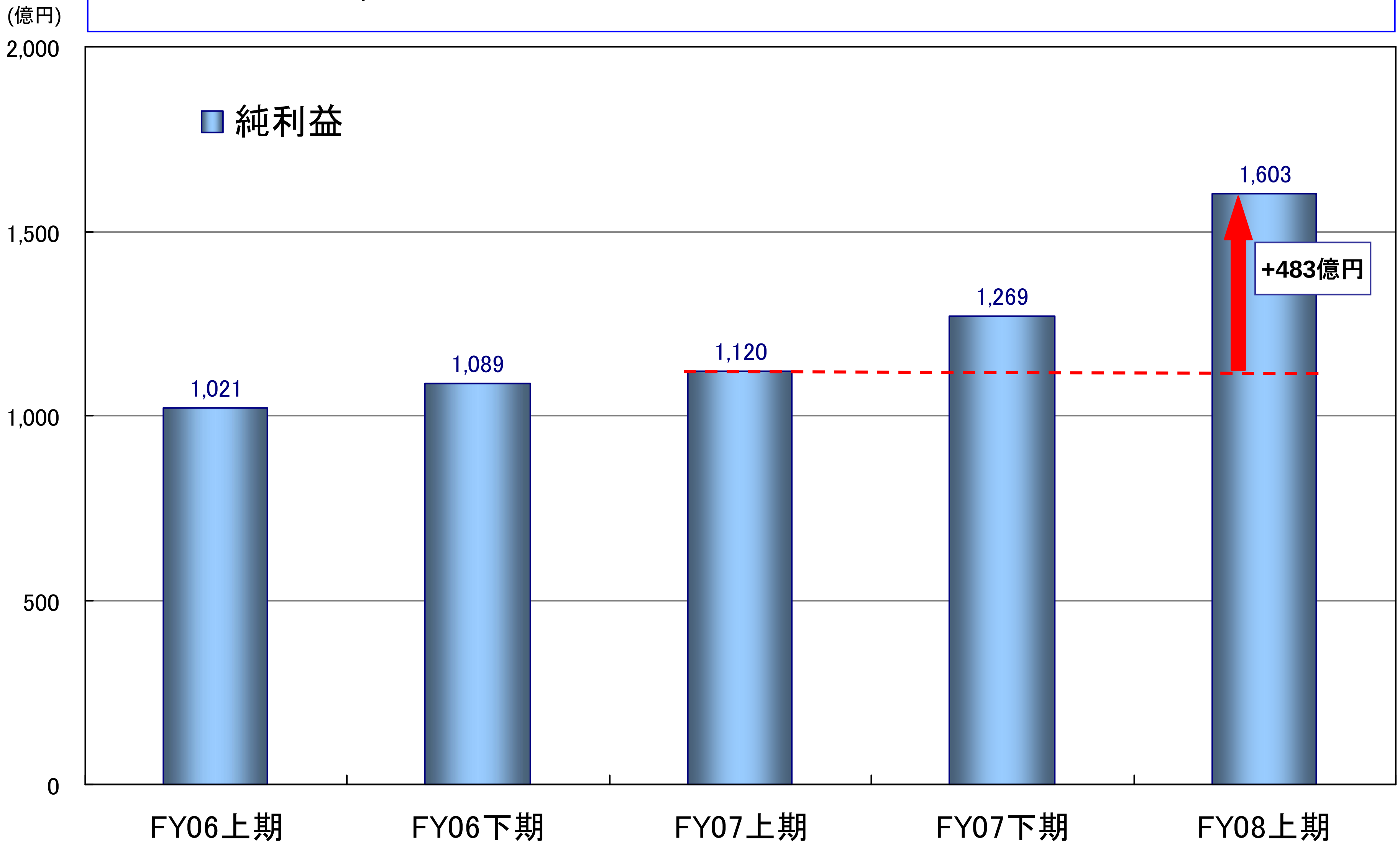
4. 株主還元

将来情報に関するご注意

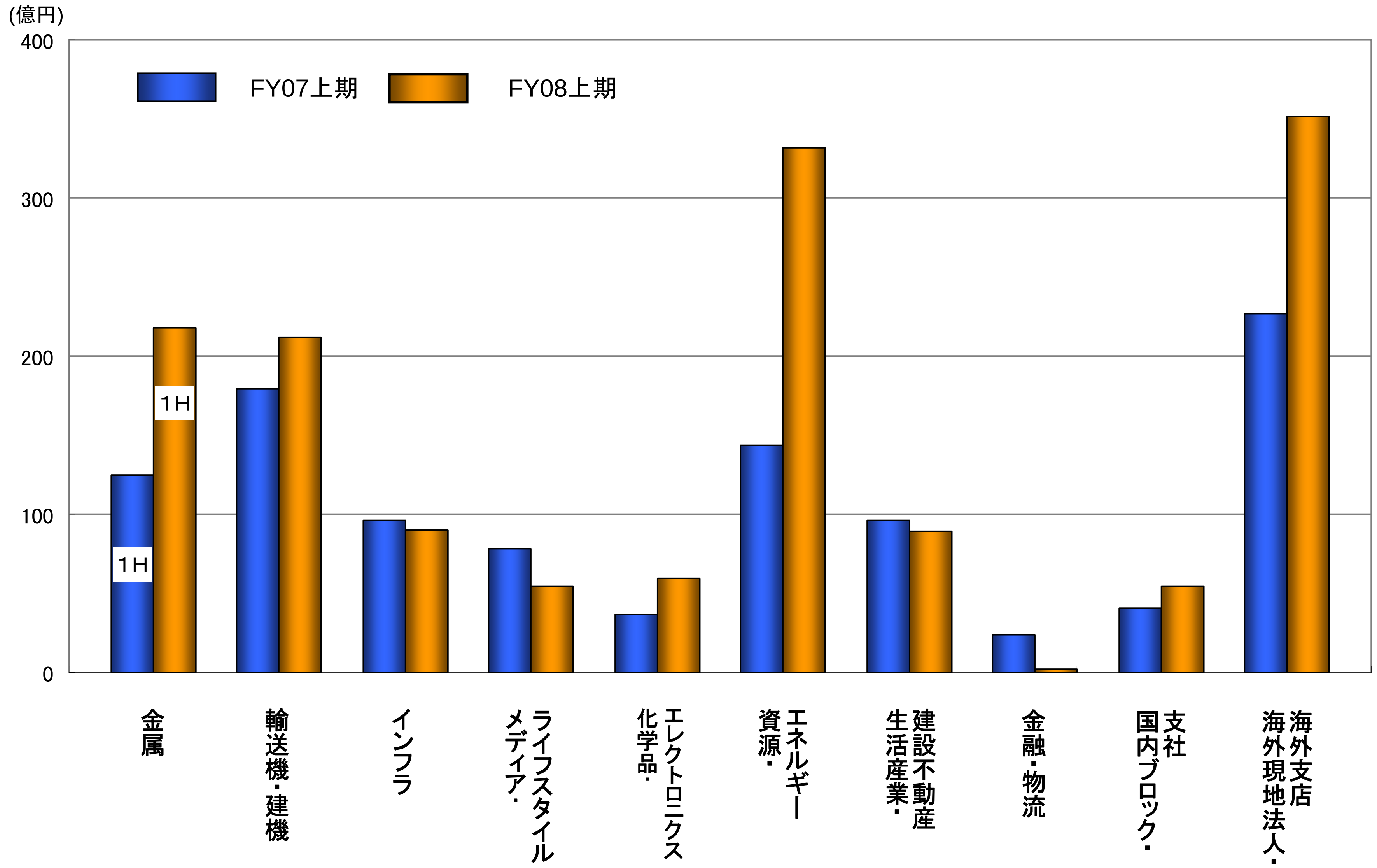
本資料には、当社のGG Plan等についての様々な経営目標及びその他の将来予測が開示されています。これらは、当社の経営陣がGG Planを成功裡に実践することにより達成することを目指していく目標であります。これらの経営目標及びその他の将来予測は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

1.中間決算総括
①純利益の推移

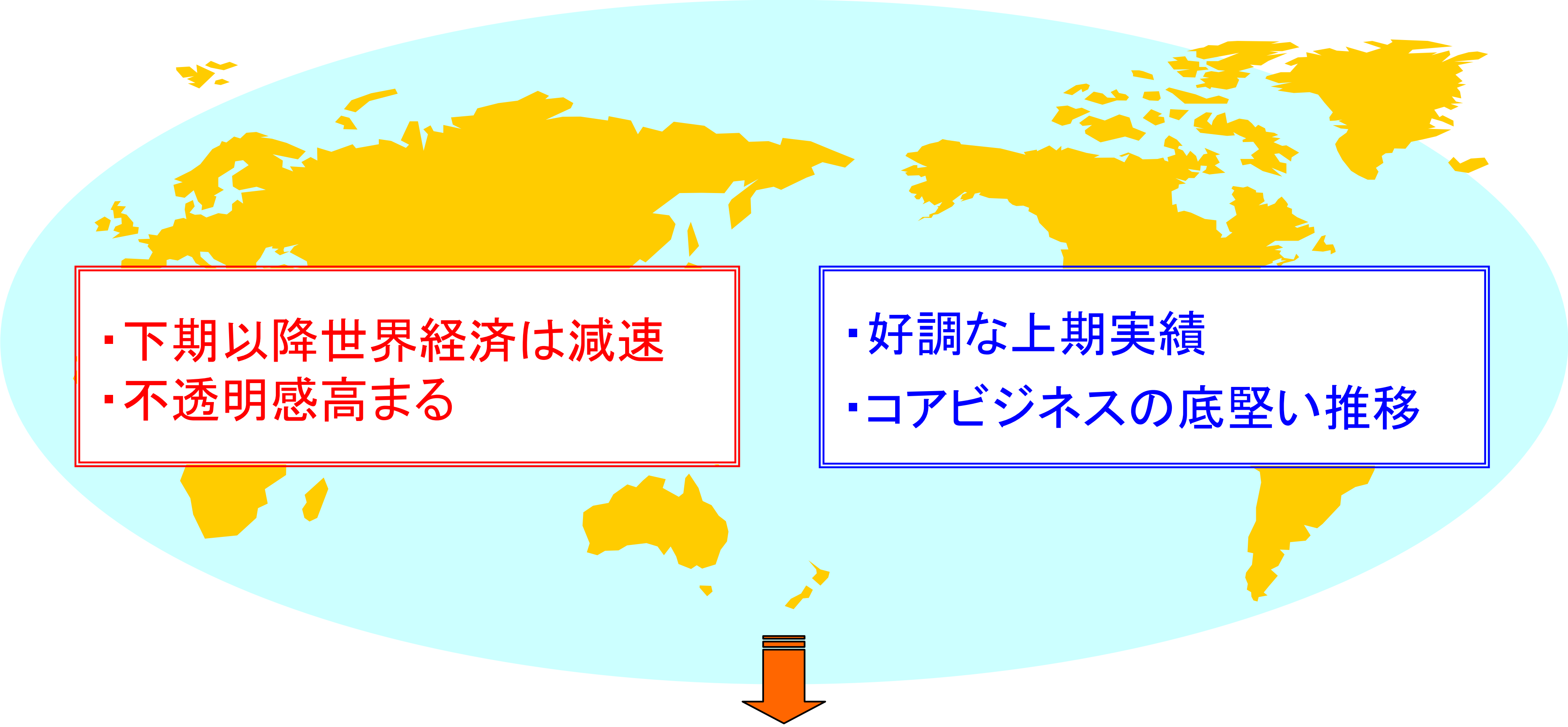
純利益:1,603億円(前年同期比+483億円、増益率+43%)



1.中間決算総括
②セグメント別純利益



2.通期業績見通し
①事業環境



通期業績：純利益2,430億円
期初計画を据え置き

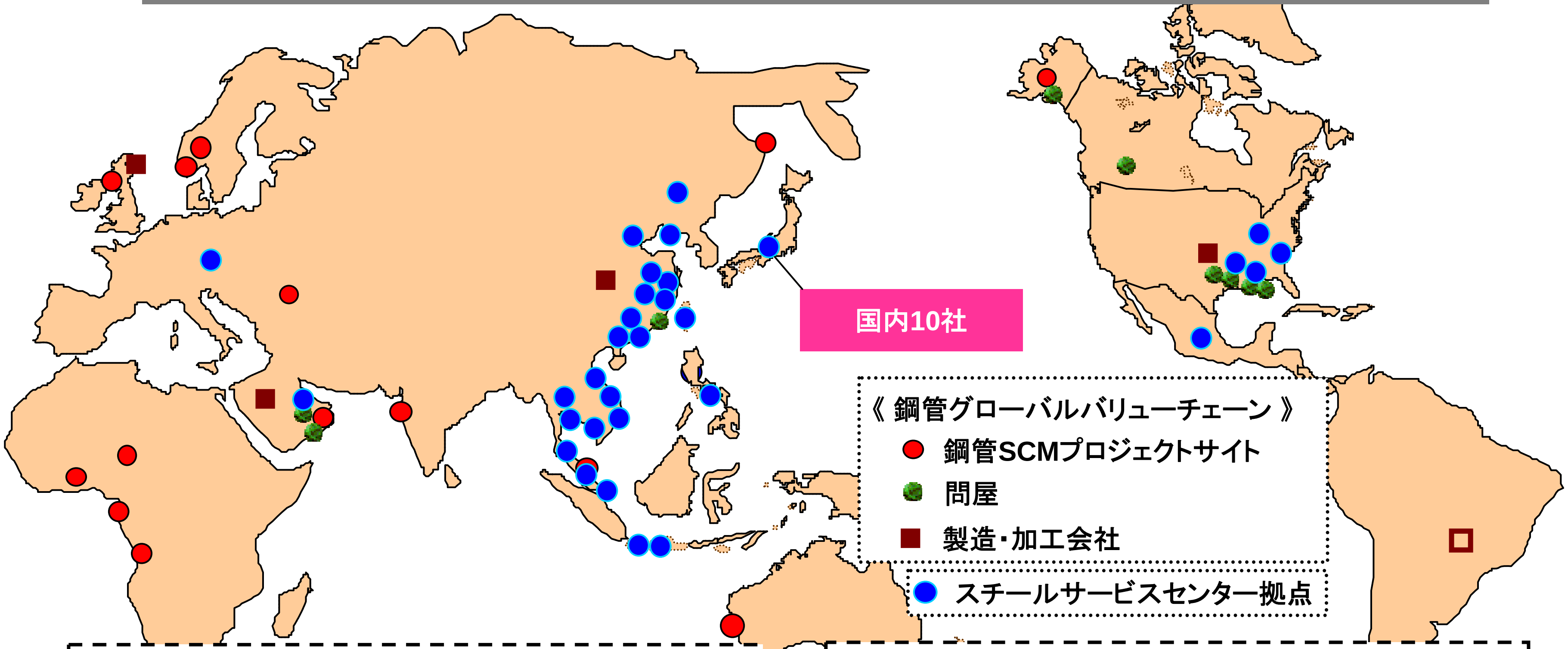
2.通期業績見通し
②セグメント別純利益見通し

(単位：億円)

【セグメント】	FY07 実績	FY08 計画	FY08 上期	FY08 計画に対する見通し	【増減要因】
金属	292	270	218	↗	堅調な需要／価格上昇
輸送機･建機	416	320	212	↗	全般的に堅調（新興国牽引）
インフラ	189	190	90	→	IPP事業堅調
メディア･ライフスタイル	138	130	54	→	J:COM、SCﾒﾃﾞｨｱｺﾑなど主要中核事業堅調
化学品･エレクトロニクス	47	80	59	↘	農薬、硫酸堅調なるも、Cantex、ｽﾐﾄﾛﾆｸｽ低迷
資源･エネルギー	320	490	332	↗	原料炭価格上昇／ﾎﾞﾘﾋﾞｱ･ﾍｯｼﾞ損益改善
生活産業･建設不動産	195	220	89	→	概ね計画通り。資材ビジネスは弱含み
金融･物流	51	100	2	↘	金融環境悪化による損失計上
国内	90	80	54	↗	金属関連取引堅調
海外	456	400	351	↗	金属関連取引堅調

2.通期業績見通し
③金属

鋼材が家電･自動車関連で下ブレリスクあるも、鋼管は堅調に推移



【鋼管】

✓石油会社向けバリューチェン構築

✓オイル価格の急激な下落による今後の掘削計画に対するリスク

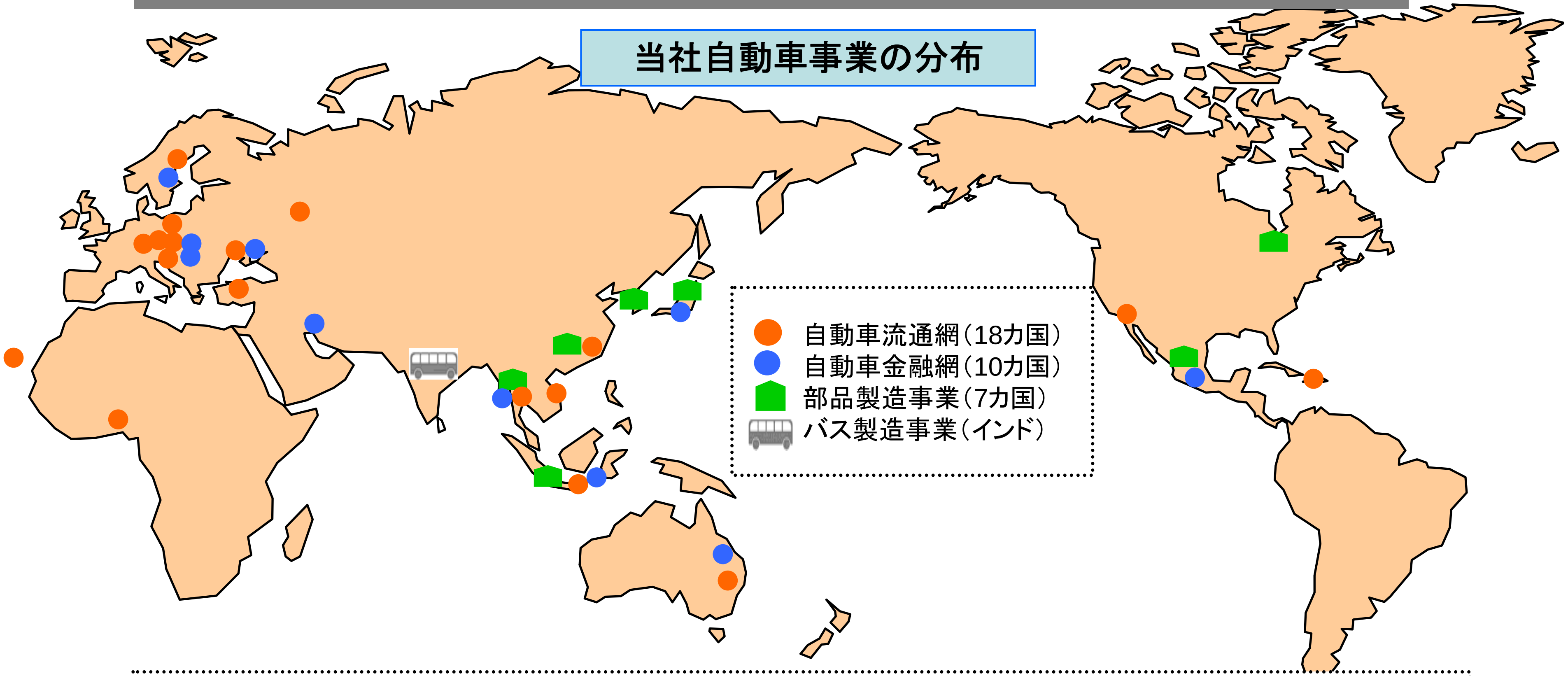
【鋼材】

✓スチールサービスセンター網の拡充

✓世界経済の減速、アジアでの自動車･家電減産が今後のリスク

2.通期業績見通し
④輸送機・建機

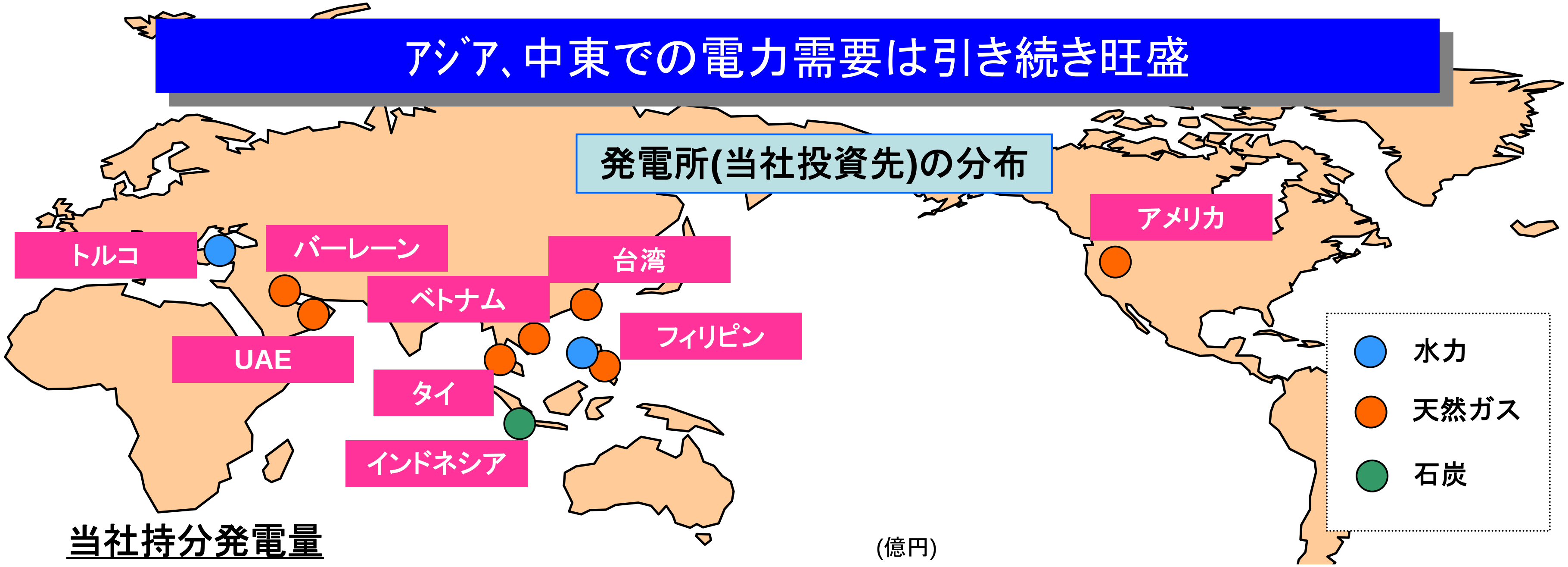
事業基盤を拡大している新興国での自動車需要は堅調



✓自動車流通、金融で経営資源を新興国にシフトし成長を取込む

✓部品製造など新規事業のグローバル展開でバリューチェーンを更に拡充

2.通期業績見通し
⑤インフラ



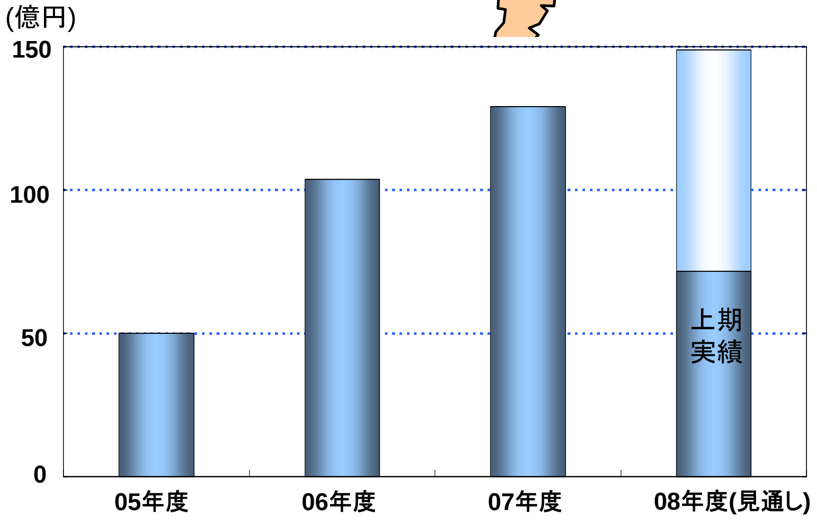
当社持分発電量

2008年9月末	3,100MW

↓

2010年(目標)	6,300MW

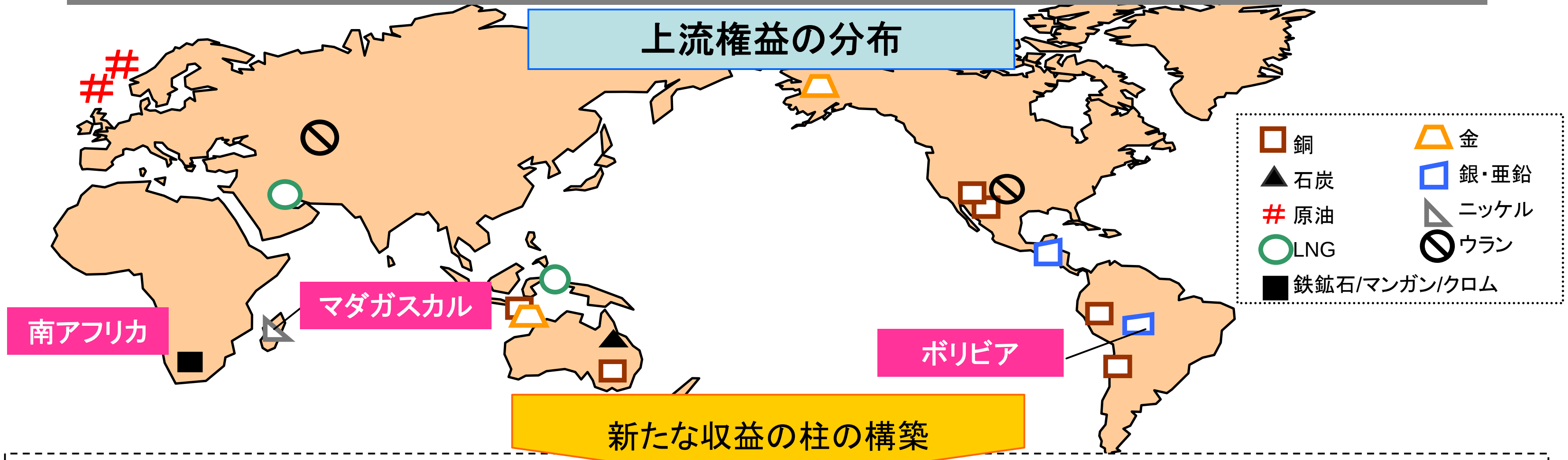
【IPP・IWPP】
✓当社の総合力、即ちプロジェクト組成・遂行能力を発揮しつつ、持分発電量の拡大を図る



発電・発電造水事業の持分損益

2.通期業績見通し
⑥資源・エネルギー

08年度は下期にリスク要因あるが、期初計画達成の見込み
09年度は新規案件が利益貢献



【上流権益の拡充】

・南アAssmang社　:鉄鉱石、マンガン、クロムを生産
　(年間持分生産量(09年度): 鉄鉱石120万トン、マンガン40万トン、クロム10万トン) 2009年度より持分増加

・ボリビアSan Cristobal　:生産規模で銀世界3位、亜鉛6位の鉱山

　(年間持分生産量: 銀184トン・亜鉛7.9万トン・鉛2.9万トン) 2007/8より生産開始、安定操業体制確立中

・マダガスカルAmbatovy　:年産6万トンの世界最大級のニッケルプロジェクト
　(年間持分生産量: ニッケルメタル1.6万トン) 2007/8開発決定、2010年生産開始予定

【バリューチェーンの拡充】
・三井鉱山　:国内外製鉄所向けコークス供給
　(コークス年間生産量:210万トン) 2008/10より持分法適用会社化、石炭輸入・コークス販売での提携強化

2.通期業績見通し
⑦地域別基礎収益

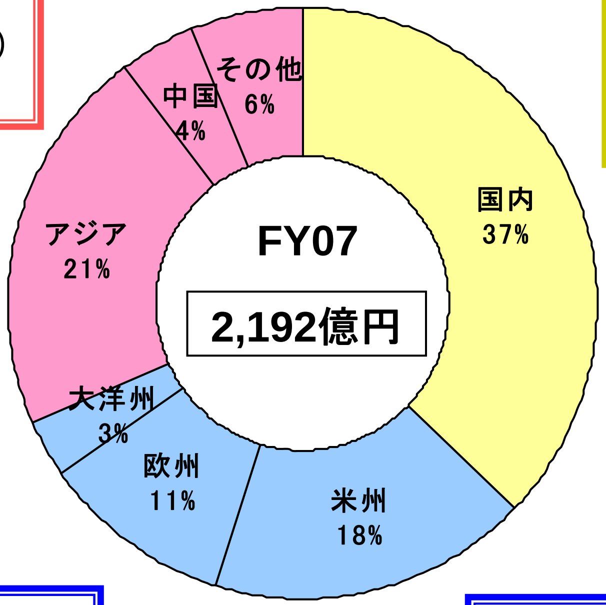
地域別コアビジネス

【アジア・中国】
・金属　：ｽﾁｰﾙｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ
・輸送機建機　：自動車金融(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ)
・IPP　：ﾀﾝｼﾞｭﾝｼﾞｬﾃｨB(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ)
・銅　：ﾊﾞﾂﾋｼﾞｬｳ（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ）

【中東】
・IPP/IWPP

【大洋州】
・豪州産石炭

【欧州】
・金属　：鋼管（英国領北海）
・輸送機建機　：建機、自動車
・化学品　：農薬、硫酸・硫黄ﾄﾚｰﾄﾞ



【国内】
＜安定収益＞
・ﾘｰｽ/ｵｰﾄﾘｰｽ
・不動産　（住宅販売、ｵﾌｨｽﾋﾞﾙ賃貸）
＜成長分野＞
・ﾒﾃﾞｨｱ事業（ﾃﾚﾋﾞ通販、CATV）

【米州】
・金属　：鋼管（ﾒｷｼｺ湾）
・輸送機建機　：北米鉱山開発用建機
・小売・住宅　：ﾀｲﾔ、住宅用塩ﾋﾞﾊﾟｲﾌﾟ、ﾍﾟｯﾄｹｱ

注）基礎収益 = （売上総利益－販管費－利息収支＋受取配当金）x 59% + 持分法損益
　2007年度はｻﾝｸﾘｽﾄﾊﾞﾙ銀・亜鉛・鉛鉱山に係るﾍｯｼﾞ損益（△221億円）を除く

2.通期業績見通し
⑧Topics　＜米国＞

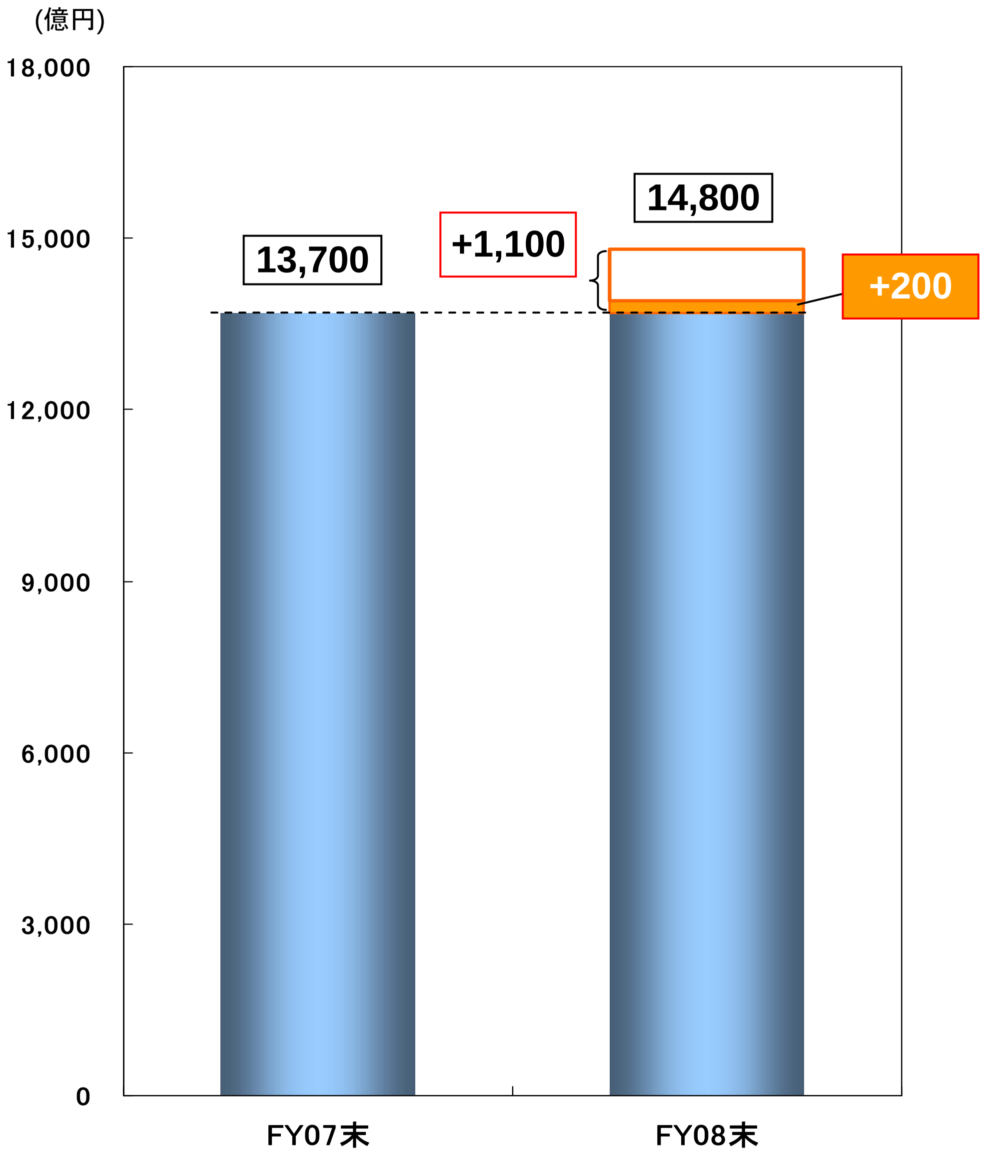
主要ビジネス

鋼管事業	V&M Star（油井管製造販売）及び問屋網（油井管卸売り）
【事業環境】	メキシコ湾及び内陸部での開発需要は引き続き堅調

住宅・消費関連ビジネス

TBC	リプレイスメント用タイヤ販売
【事業環境】	サービス部門堅調なるもタイヤ市場が弱含む
CANTEX	住宅用塩ビパイプ製造販売
【事業環境】	住宅着工件数の大幅な減少に伴い環境は厳しい
Hartz Mountain	ﾍﾟｯﾄ用品製造販売
【事業環境】	消費マインド減退により環境は弱含み

3.GG Planの進捗状況
①2008年度リスクアセット見通し



・2008年度上期　　＋200億円

増加：約＋800億円･･･新規積み増し
減少：約△600億円･･･資産入替、株価下落等

・2008年度年間　＋1,100億円

増加：約＋1,700億円
減少：約　△600億円

GGPlan（2年間）　約 ＋1,300億円(Net)
増加：約＋3,400億円
減少：約△2,100億円

リスク･リターン見通し（2年平均）：17.4%

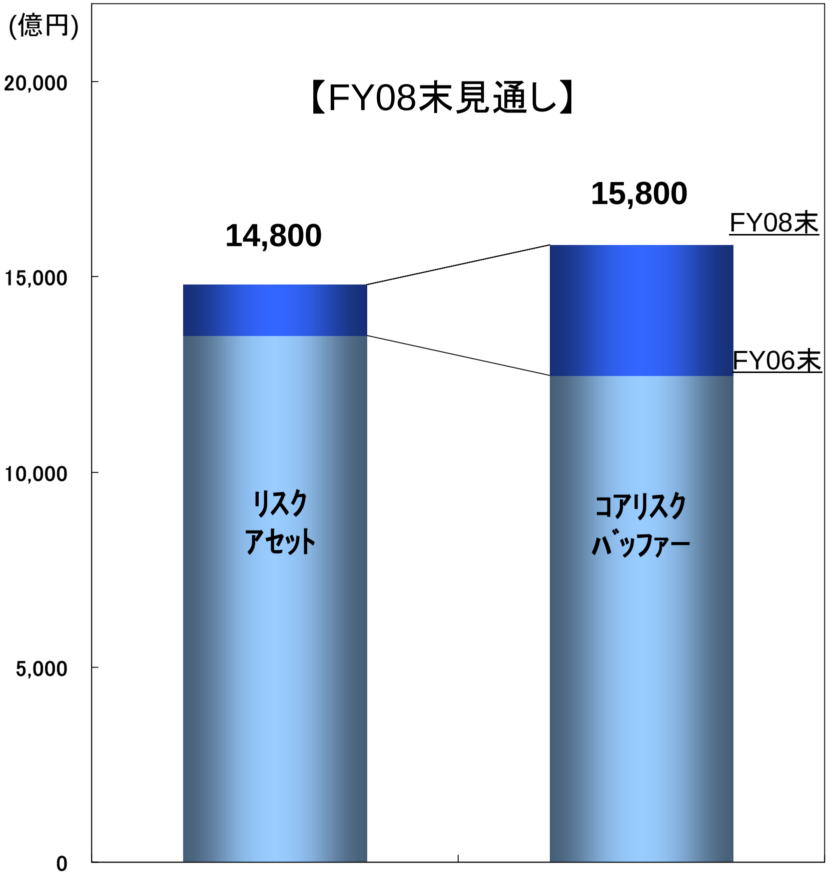
3.GG Planの進捗状況
②主要経営指標

	FY07末	FY08末見通し
総資産	7兆5,714億円	7兆9,000億円
株主資本	1兆4,927億円	1兆6,300億円
株主資本比率	19.7%	20.6%
有利子負債 (Net)	3兆2,476億円	3兆3,700億円
DER (Net)	2.2倍	2.1倍
ROE	16.1%	15.6%
ROA	3.0%	3.1%

3.GG Planの進捗状況
③財務体質

・リスクアセットとコアリスクバッファー*のバランス

* 資本金＋剰余金＋外貨換算調整勘定－自己株式



・格付
Moody's : A2 (安定的)
S&P : A (安定的)
R&I : AA- (安定的)

・DEレシオ(ネット)は2倍程度を維持

・資金調達
円建・ドル建とも
邦銀からの間接調達が中心

・充分な流動性の維持

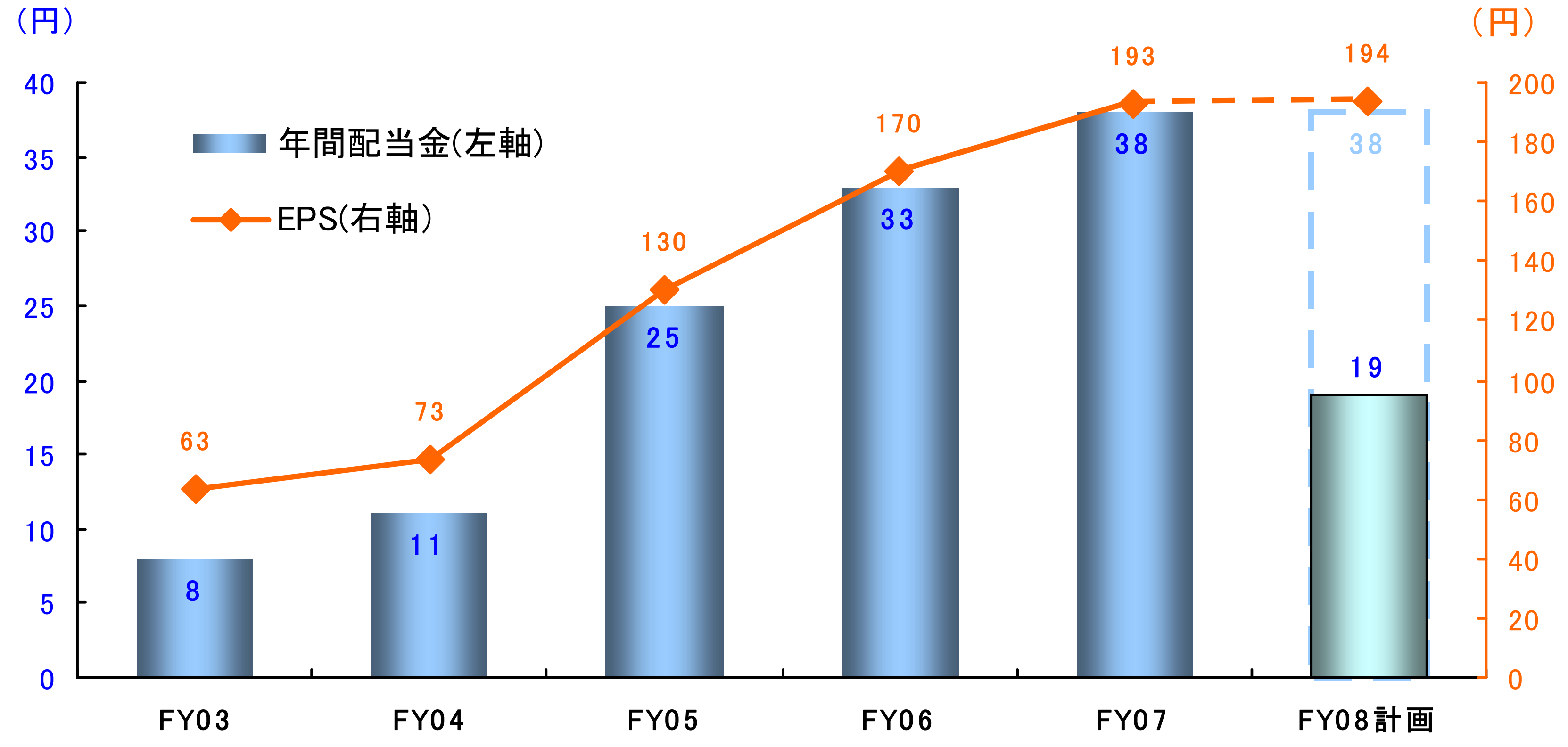
・グループファイナンス体制構築
本社・米国・欧州・アジア4主要拠点

4.株主還元

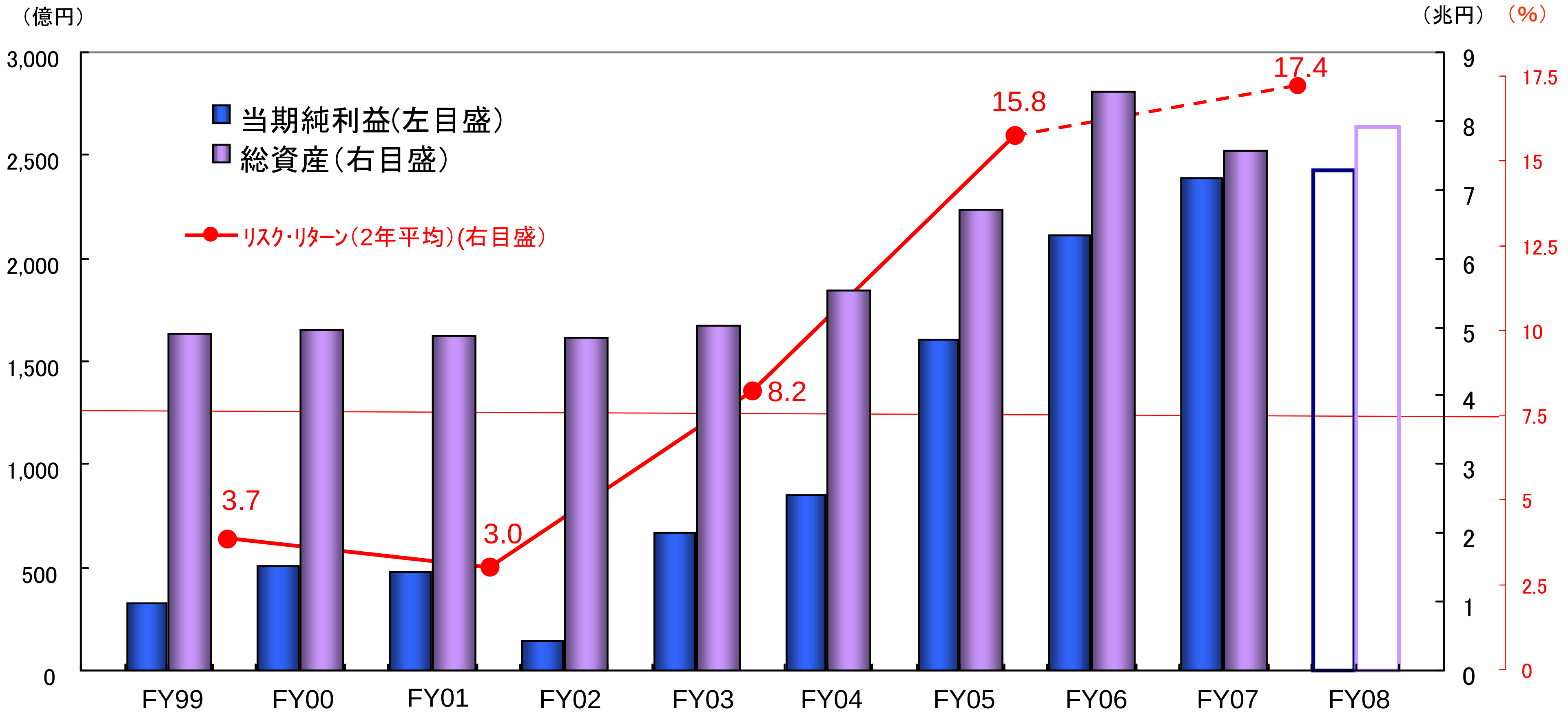
配当方針:GG Plan中は、配当性向20%を目処

・2008年度:純利益年間見通し2,430億円を達成した場合

⇒ 予想年間配当金38円、中間配当金(決定)19円



持続的成長に向けて①



改革パッケージ	Step Up Plan	AA Plan	AG Plan	GG Plan
事業の選別、資産の圧縮による体質強化	中核事業の構築･拡大、資産の入替による収益性の向上	優良資産を積極的に積み増し	収益基盤の拡大に軸足	新たな成長ステージに向けて、更なる質の向上を追求

持続的成長に向けて②

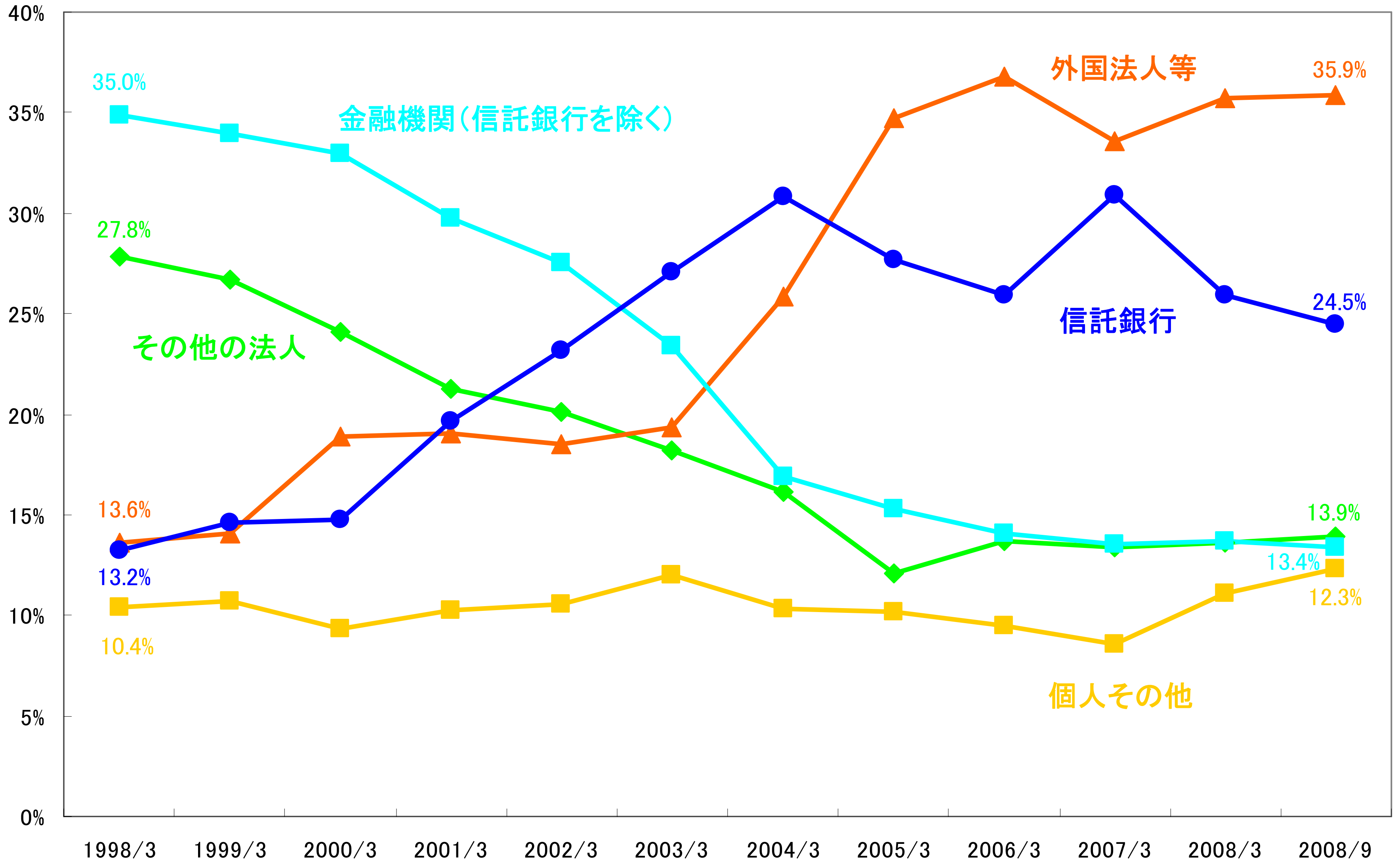
【世界経済】
●先進国：景気回復に時間を要す
●新興国：中長期的には着実に成長
【当社の強み】
●バランスの取れたポートフォリオ
●健全な財務体質
ビジネス環境の変化はチャンス
持続的成長

（以下参考資料） 前提条件

前提条件		09/3期 期初予想 （08/4時点）	09/3期 上期実績	09/3期 見通し （08/10時点）	センシティビティ
為替（¥/US$:平均）（4-3月）		105	106	105	約7億円 （1¥/US$）
金利	LIBOR 6M (YEN)	1.00%	1.00%	1.10%	－
	LIBOR 6M (US$)	3.0%	3.06%	3.5%	－
原油<北海ブレント>（US$/bbl）		90	110	104	1億円弱 （1US$/bbl）
原料炭 (US$/MT)*		285～300程度	285～300程度	285～300程度	－
銅（US¢/lb）		325	368	336	0.3億円 （1US¢/lb）

＊市場情報に基づく一般的な取引価格

株主構成推移



40%
35%
30%
25%
20%
15%
10%
5%
0%
35.0%
金融機関(信託銀行を除く)
外国法人等
35.9%
27.8%
その他の法人
信託銀行
24.5%
13.6%
13.2%
13.9%
13.4%
12.3%
10.4%
個人その他
1998/3
1999/3
2000/3
2001/3
2002/3
2003/3
2004/3
2005/3
2006/3
2007/3
2008/3
2008/9

GG Plan - 収益基盤の拡大①

【金属】[ソリューションプロバイダーとしての機能強化]

【進捗状況】

ｴﾈﾙｷﾞｰ･自動車分野に経営資源を投入

・鋼管:油井管及びその周辺分野で事業基盤拡大

>HOWCO子会社化／ﾌﾞﾗｼﾞﾙ鋼管新ﾐﾙへの出資決定

>鋼管SCM拠点の拡充 （ 13カ国14ヶ所の展開 ）

・自動車用鋼管製造事業進出(ｲﾝﾄﾞ)

・ｽﾁｰﾙｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰのｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ網強化

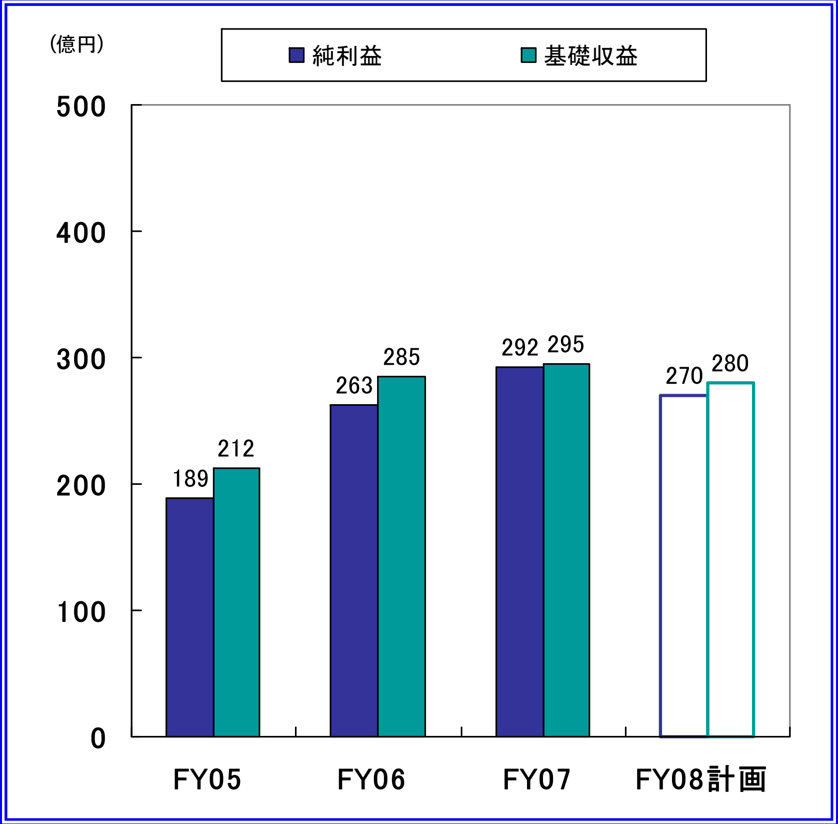
・住友金属･中國鋼鐵との薄板製造会社への出資決定(ﾍﾞﾄﾅﾑ)

（注：青字は2007年度実施済み、赤字は2008年度上期実施案件）

【事業環境】

・引き続き石油･ガス開発意欲は旺盛

・自動車･家電関連は消費減退で弱含み



GG Plan - 収益基盤の拡大②

【輸送機・建機】[バリューチェーンの拡充]

【進捗状況】

・自動車

>住友三井ｵｰﾄｻｰﾋﾞｽ発足(規模の拡大・収益性向上)

>製造事業海外展開(ｲﾝﾄﾞ:ｷﾘｳ進出、ｽﾜﾗｼﾞいすゞ製ﾊﾞｽ)

>自動車卸売事業強化

(ﾄﾖﾀ･ｳｸﾗｲﾅ、三菱･ｽｳｪｰﾃﾞﾝ、ﾌｫｰﾄﾞ･中欧)

・建機

>代理店事業の更なる拡充(欧州、ｶﾅﾀﾞ、中国、ﾛｼｱ)

>ﾚﾝﾀﾙ事業、中古建機の海外展開と

製造用部品SCMビジネスの拡大

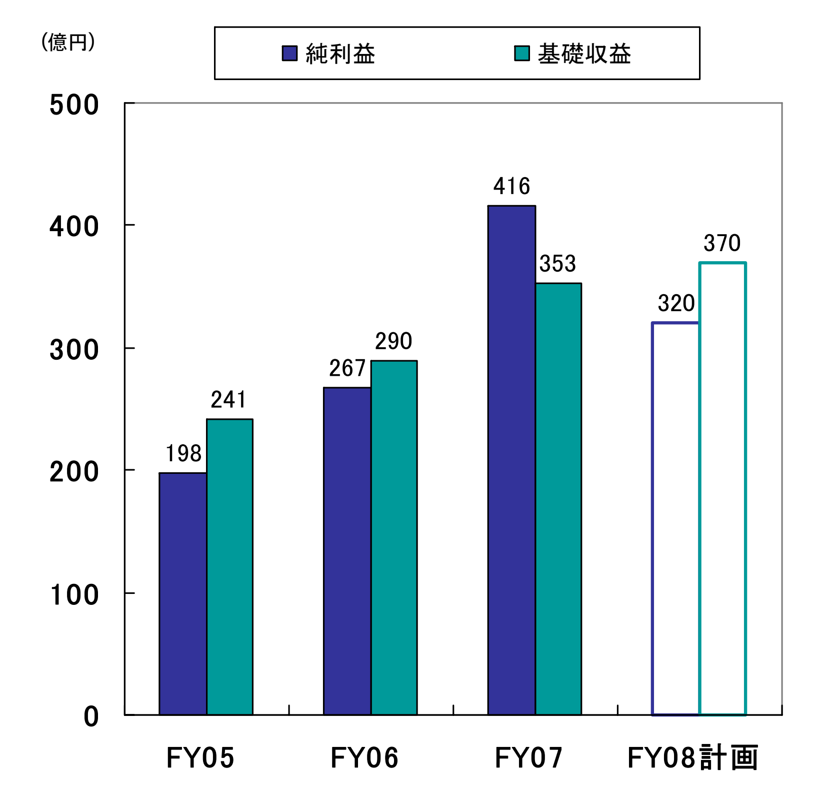
・船舶・航空宇宙・車輌

>ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ拡充及び継続的な資産入替

【事業環境】

・新興国での自動車市場の拡大

・建機市場は米国で低迷、欧州で顕著な減速



GG Plan - 収益基盤の拡大③

【インフラ】[安定した収益基盤の強化・拡充]

【進捗状況】

・ｺｱﾋﾞｼﾞﾈｽの強化・拡充

>IPP/IWPP：ｱｼﾞｱ、中東、米国で更なる拡充

- AMATA POWER(ﾀｲ)権益取得

-ｼｭﾜｲﾊｯﾄS1発電･造水事業への進出

>EPC：ｺｱ市場（ｱｼﾞｱ）の深耕と環境関連ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ推進

- Tanjun Bin(ﾏﾚｰｼｱ)完工

- 地熱発電所建設(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ)

・新規ｺｱﾋﾞｼﾞﾈｽの育成

>水事業　　:下水処理事業(ﾒｷｼｺ)、地域冷房事業(UAE)

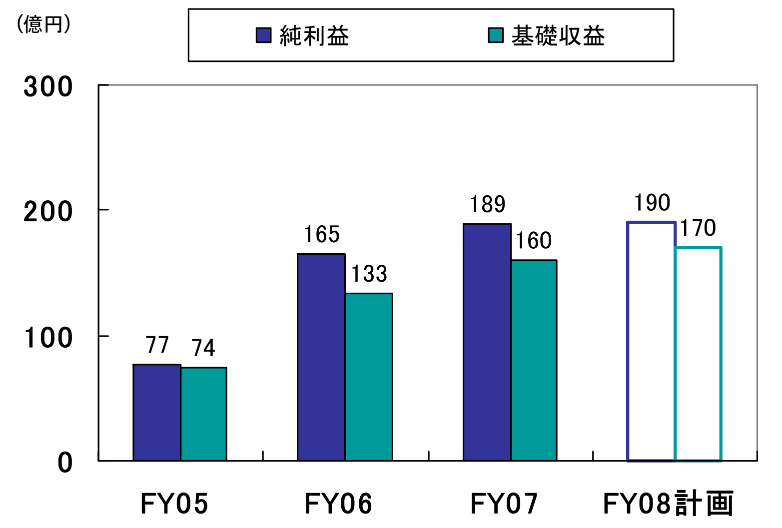
>通信事業　:海外での新規投資とﾊﾞﾘｭｰ実現

>環境・省ｴﾈ:太陽光発電事業(ｽﾍﾟｲﾝ)

【事業環境】

・中東、アジアを中心に新興国で電力需要は旺盛

・環境関連ビジネスへの関心の高まり



GG Plan - 収益基盤の拡大④

【メディア･ライフスタイル】[コアビジネス強化／ウェブリテイル推進]

【進捗状況】

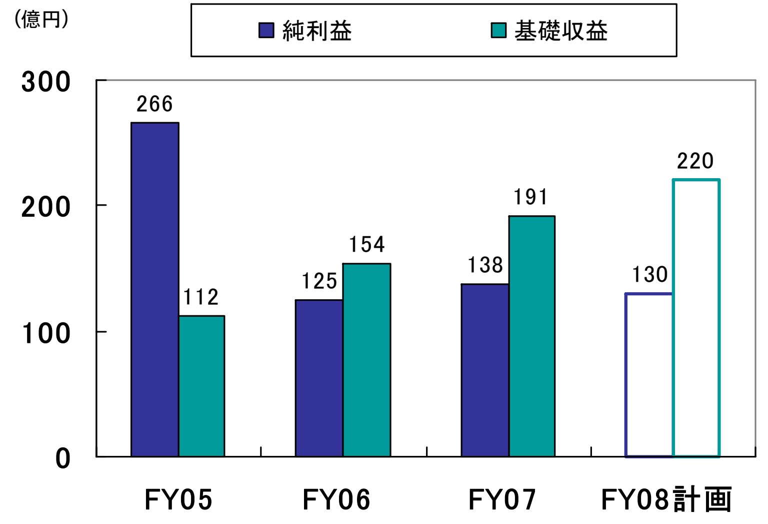
・ﾒﾃﾞｨｱ／ﾈｯﾄ／ﾘﾃｲﾙの融合による
ｺﾝｼｭｰﾏ向けﾋﾞｼﾞﾈｽの強化・拡大
　>ｼﾞｭﾋﾟﾀｰｼｮｯﾌﾟﾁｬﾝﾈﾙ子会社化
　>既存ﾘﾃｲﾙﾋﾞｼﾞﾈｽのEｺﾏｰｽ化推進

・J:COMの基盤拡大・ｻｰﾋﾞｽ向上による収益力強化
　>JTV統合によるｺﾝﾃﾝﾂ力強化
　>M&A推進による広域運営強化
　>ｺﾐｭﾆﾃｨ総合ｻｰﾋﾞｽ強化

・ｺｱﾋﾞｼﾞﾈｽの拡充
　>MSｺﾑ/ﾃﾚﾊﾟｰｸ合併による業界No.1の
　地位確保（新会社ﾃｨｰｶﾞｲｱ発足）
　>住商情報ｼｽﾃﾑ基盤強化
　>ｻﾐｯﾄ店舗拡充による成長戦略推進

【事業環境】

・放送と通信の融合による競争の激化
・消費者ﾆｰｽﾞの多様化に伴うｻｰﾋﾞｽの高付加価値化
・国内小売市場の消費冷え込みによる影響懸念



GG Plan - 収益基盤の拡大⑤

【化学品・エレクトロニクス】[グローバルネットワーク拡充]

【進捗状況】

・コアビジネスの収益改善と基盤の強化

＞Cantex　：マーケット縮小に合わせた生産体制の追求とコストダウンの徹底

＞スミトロニクス：北米での薄型TV基板実装事業の本格稼動

＞ペットケア　：新商品開発・投入 (Hartz)

＞無機原料：ソーダ灰、硫黄・硫酸などのトレード機能強化

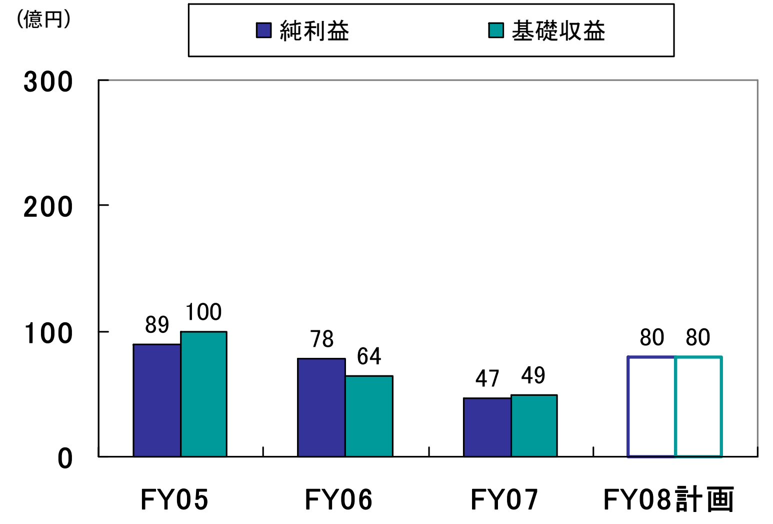
＞農薬　　：販売網のグローバル展開(ロシア、豪州) の拡大

【事業環境】

・北米での小売・住宅関連ビジネスは依然として低迷

・エレクトロニクス業界全般における需給バランスの急激な悪化

・鉱山関連の原料ビジネス(硫酸等)は弱含みの展開



GG Plan - 収益基盤の拡大⑥

【資源・エネルギー】[バランスの取れた上流権益の拡充]

【進捗状況】

・既存4本柱(銅、石炭、石油、LNG)の増強

>石炭・銅事業での順調な操業と収益貢献

>豪州未開発炭鉱のF/S推進

・新たな収益の柱の構築

>銀・亜鉛・鉛　：サンクリストバル安定操業体制確立中

>ニッケル　：アンバトビー開発推進

>鉄鉱石・マンガン：アソマン社(南ア)株式の追加取得

>三井鉱山　：持分法適用会社化

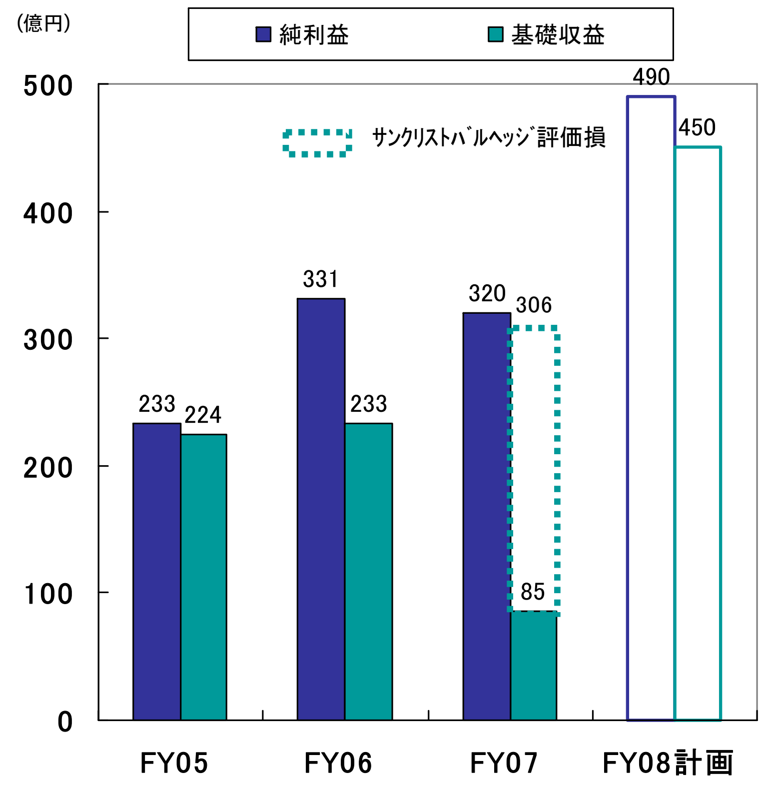
・資産入替えによる選択と集中

>LPG事業の事業統合、住商石油

【事業環境】

・景気減速、投機資金流出による急激な価格下落

・長期的には新興国の経済成長による需給のタイト化



GG Plan - 収益基盤の拡大⑦

【生活産業･建設不動産】[競争優位性を持つ事業の強化]

【進捗状況】

・不動産

　＞ﾋﾞﾙ･商業施設：新規資産の積み増しと入替えによる収益の維持･拡大

　>住宅：首都圏･関西の大型複合面開発案件を中心に高収益維持(THE TOKYO TOWERS等)

・資材

　>ﾀｲﾔ：TBCの成長戦略推進(直営店拡充、ｻｰﾋﾞｽ売上拡大、商品ﾗｲﾝｱｯﾌﾟ拡充)

　>木材：ﾛｼｱ材加工事業推進(ﾁｪﾙﾈｲﾚｽ)

・食料

　>肥料：海外での収益基盤強化（中国、西豪州）

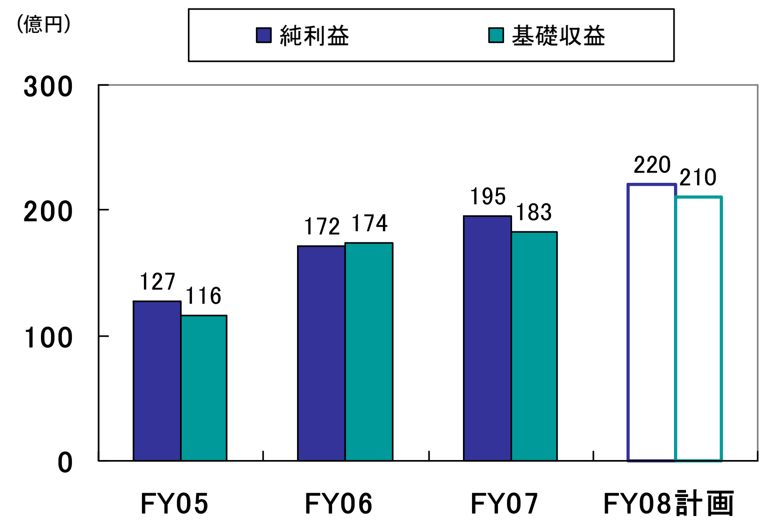
　>ﾊﾞﾅﾅ：生産基盤拡充に向けた取り組み

【事業環境】

・国内不動産市況に不透明感／住宅市況の悪化

・北米タイヤ市場はマイナス成長

・食料関連の原材料価格は下落傾向



GG Plan - 収益基盤の拡大⑧

【金融・物流】[機能とサービスの高度化]

【進捗状況】

・金融ビジネス

>コモディティ　　　:商品価格変動リスクのヘッジニーズ取り込み

>アセットマネジメント:強みのある分野に絞り受託資産積上

>投資開発　　　:外部投資ファンドとの連携推進

>リースビジネス　　:三井住友ファイナンス&リースとの連携強化

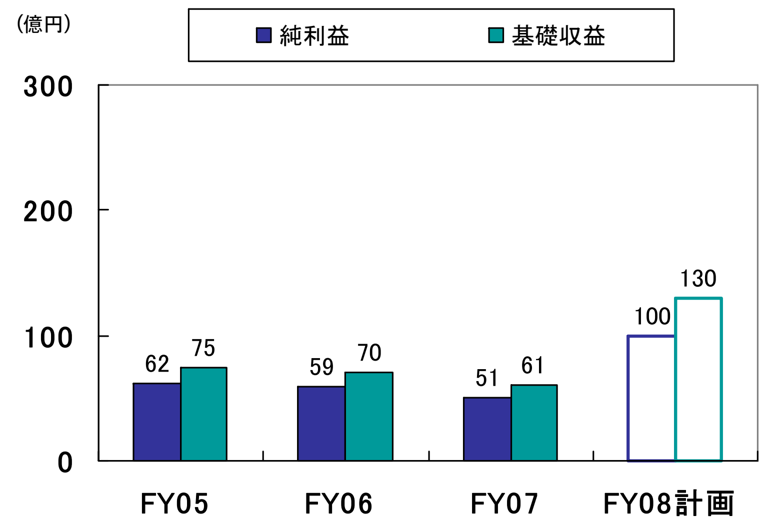
→航空機リース事業　等

・物流ビジネス

>物流　　　　　: グローバルネットワークの強化

(タイ新倉庫稼動、メーカー調達物流受託拡大)

>海外工業団地: ベトナム第二タンロン販売開始

【事業環境】

・世界的金融危機による金融マーケットの急激な収縮